

PRESS RELEASE

2019年4月16日
日本ミシュランタイヤ株式会社

ANAのハワイ路線に新導入のエアバスA380型機に ミシュランラジアルタイヤ「MICHELIN Air X」採用

～ニアゼログロース採用による高い安全性、タイヤ交換回数低減、メンテナンス低減が評価～

日本ミシュランタイヤ株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：ポール・ペリニオ）の航空機用ラジアルタイヤが、全日本空輸株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：平子裕志）が2019年5月24日からハワイ路線に導入するエアバスA380型機（以下、A380）に採用されることが決定しました。今回A380に装着されるタイヤは、Near Zero Growth（ニアゼログロース）テクノロジーを採用した航空機用ラジアルタイヤ「MICHELIN Air X®（ミシュラン エア イックス）」です。

ニアゼログロース（以下、NZG）テクノロジーとは、タイヤ寸法の増大を限りなくゼロに近づけるミシュラン独自の技術です。航空機用タイヤは乗用車用タイヤなどに比べて高内圧で使用されるため、窒素ガス充填後および離着陸時の高速走行で寸法が増大します。これを抑えることで、タイヤの耐久性を高め、異物による損傷を受けにくくします。

「MICHELIN Air X®」には一般的なラジアルタイヤとNZGテクノロジーを採用したラジアルタイヤがあり、ともに長寿命によりタイヤ交換回数低減、タイヤ重量低減により燃費向上と環境負荷低減を実現しています。NZGテクノロジーを採用した本製品は、一般的なラジアルタイヤを上回る軽量化により航空機の燃費のさらなる改善につながります。さらに、タイヤ交換回数が減ることで運行にかかる費用や時間も低減されます。

日本ミシュランタイヤ株式会社 代表取締役社長 ポール・ペリニオは以下のように述べています。

「ミシュランはラジアルタイヤのパイオニアであり、20世紀初頭から空のモビリティ発展に特に意欲を注いできました。このたびミシュランが誇るNZGテクノロジーを採用した航空機タイヤの安全性と信頼性が、ANAの厳格な選定プロセスを経てA380型機に採用されたことを大変喜ばしく思います。モビリティの持続的な発展に貢献することを企業理念とするミシュランは、今後も品質向上に努めさらに貢献できるよう尽力して参ります」



MICHELIN Air X®

【ANA A380「FLYING HONU」について】

エアバスA380型機は、総2階建て座席数520席の世界最大の旅客機で、日本の航空会社が受領したのは初めて。2019年5月24日から成田—ホノルル路線に投入される「空飛ぶウミガメ」の意味を持つANA A380「FLYING HONU（フライング・ホヌ）」は、ハワイの海と空、夕日をイメージした特別塗装が施されている。



ANA A380「FLYING HONU」機体

【ミシュランについて】

ミシュランは、フランス クレルモン＝フェランに本社を置くタイヤ製造の世界的なリーダーです。11万4,000人以上の従業員を擁し、171カ国で持続可能なモビリティの実現のため、お客様にとって最適なタイヤ、サービス、ソリューションを提供しています。17カ国70製造拠点で、約1億9千万本のタイヤを製造（2017年実績）するとともに、デジタルサービス、旅行ガイド、ホテル・レストランガイド、地図など、皆様のモビリティをユニークで充実した体験にするお手伝いや、モビリティ業界のための高い技術を提供しています。詳しくは www.michelin.com をご参照ください。